

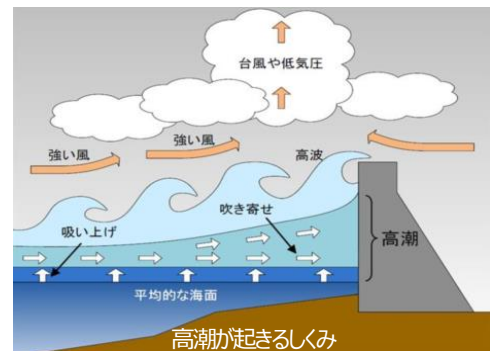
【9月の気象】

- ▷ 9月は、8月に続いて気温が高い時期です。農作物の管理や熱中症に注意が必要です。  
高温注意情報の発表状況はこちら → <https://www.datajma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/>
- ▷ 9月は、8月に次いで台風が多く発生し、日本へ接近する時期です。台風の平年値（1981～2010年）によると、9月の台風の発生数は4.8個、日本への接近数は2.9個、四国への接近数は0.9個です。気象庁では、台風に発達すると予想される熱帯低気圧の5日先までの進路・強度予報をこの9月から提供する予定です。台風情報を積極的に入手し、早めの台風対策にお役立てください。  
台風に関する詳細な説明はこちら → <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/typhoon/index.html>
- ▷ この時期は、秋雨前線が形成され日本付近に停滞し、長雨をもたらすことがあります。このとき、前線に向かって台風や熱帯低気圧から暖かく湿った空気が流入すると、秋雨前線の活動が活発となって大雨となることがあります。台風の進路と前線の位置には注意が必要です。
- ▷ 9月は竜巻が発生しやすい時期です。屋外では、竜巻などの激しい突風はもとより、その前段階となる積乱雲の接近や発達、これに伴う急な強い雨や雷の発生に注意が必要です。  
降水や積乱雲の動向(雷・竜巻発生確度)はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>  
竜巻注意情報の発表状況はこちら → <https://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>

【気象用語】「高潮」とは

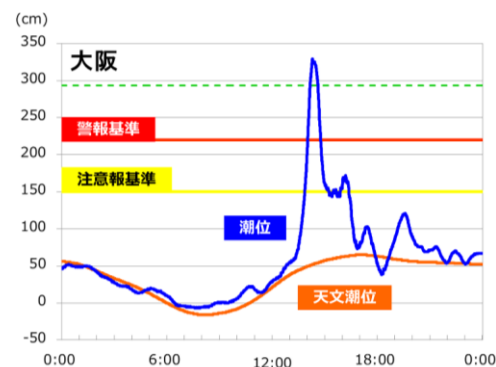
高潮とは、台風などの接近によって海面の高さが平常より特に高くなる現象です。

台風や低気圧の中心付近では気圧が低いので、大気が海面を押し下げる力が周囲より弱くなり、海面が上昇します。これを「吸い上げ効果」といい、気圧が低いほど海面は上昇します。また、台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水が海岸に吹き寄せられ、海面が上昇します。これを「吹き寄せ効果」といい、風が強いほど海面は上昇します。



台風が接近すると、海岸付近では、高潮に加え、高波によって海水が護岸を乗り越えて押し寄せることで、係留船舶や港湾施設の損壊、浸水や冠水の被害が発生するおそれがあります。さらに、河口付近では大雨による河川の増水と合わせ、浸水被害が拡大する場合があります。

愛媛県では、1991年（平成3年）台風第19号の接近と満潮が重なり、沿岸部や島しょ部で高潮と高波によって、床上・床下浸水、係留漁船等の沈没・流出、港湾施設や海岸の損壊などのほか、海岸付近の国道を帰宅中の人が高波にさらわれ亡くなりました（[愛媛県作成の資料](#)）。



2018年9月4日台風第21号接近時の大阪港の潮位

このほか、1993年（平成5年）台風第13号や2007年（平成19年）台風第5号では、高潮と大雨が重なったこともあり、河川の氾濫や下水の逆流による浸水・冠水被害などが発生しています。

海岸や河口付近にお住まいの方は、普段から地域の防災マップ等で高潮による浸水想定区域（[詳細はお住まいの市町へお尋ねください](#)）や避難経路、避難場所を把握しておき、気象台が発表する防災気象情報や市町からの避難情報の積極的な入手に努めてください。特に、夜間や台風による風雨が強まってから屋外へ出るのは危険です。高潮の危険が迫る前の明るいうちに躊躇なく避難行動をとってください。

なお、夏から秋は例年、海水温が高いことなどから平常でも潮位が高く、特に大潮の満潮時には海岸や河口付近の低地では浸水や冠水が発生しやすくなります。これは台風に伴う「高潮」とは異なるものですが、この高い潮位に対しても気象台は「高潮注意報」を発表して浸水や冠水に対する注意を呼びかけます。